

報道機関各社 様

令和8年2月10日

City of Sapporo

麻しん（はしか）に関する注意喚起について

2月5日（木）に東京都に届出があった麻しん患者について、周囲の人が感染する可能性のある時期に、札幌市内のホテルと飲食店を利用していたことが判明しました。

現在、札幌市保健所において、接触者の健康状態の確認等を行っています。

麻しんは、非常に感染力の強い感染症で、全国的に患者報告数が増えており、札幌市保健所にも1月29日（木）に届出が1件ありました。

麻しんの主な感染経路は空気感染で、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、数日後に高熱と発疹が出現します。

麻しんを疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡した上で、受診してください。

また、麻しんには、予防接種が有効です。定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校入学前1年間）を受けていない方、麻しんの罹患歴がない方は、予防接種をご検討ください。

1 患者の概要

発生	性別	年齢	海外渡航歴	ワクチン接種歴	発病日
東京都	男性	30代	有	不明	1月24日

2 経過

1月26日（月） 札幌市内のホテル、飲食店を利用

1月27日（火） 札幌市内のホテル、飲食店を利用

1月28日（水） 札幌市内のホテルを利用

3 麻しんに関する注意喚起

- (1) 麻しんを疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に麻しんの疑いがあることを連絡した上で、医療機関を受診してください。受診の際は、マスクを着用するとともに、公共交通機関の利用は控え、医療機関の指示に従ってください。
- (2) 予防には予防接種が最も有効です。定期予防接種の対象者（第1期：1歳児、第2期：小学校入学前1年間）の保護者の方は、お子様の接種歴を確認し、未接種の場合には接種をご検討ください。定期予防接種の対象者の方ほか、麻しんの罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合、海外渡航を計画している方も予防接種をご検討ください。

問い合わせ先：札幌市保健所感染症総合対策課

電話：622-5199

参考資料

麻しんについて

1 症状等

免疫を持っていない人が感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎や中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。

2 感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、人から人への感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われており、周囲の人が感染する可能性のある時期は、発症の1日前から解熱後3日間を経過するまでとされています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

3 潜伏期間

約10日～12日間

4 予防

- ・麻しんは感染力が非常に強く、主に空気感染であるため、手洗い・マスクで予防はできません。
- ・麻しんには、予防接種が有効です。
- ・定期予防接種の対象者（第1期：1歳児、第2期：小学校入学前1年間）は、無料で接種できます。なお、本市の令和6年度の接種率は、第1期が94.5%、第2期が87.4%であり、国の目標値である95%に対し、特に第2期の接種率が低い状況となっています。
- ・定期予防接種の対象者以外の方も、「2回の接種歴のある方」又は「過去に麻しんに罹患したことがある方」を除き、2回接種することが重要です。
- ・なお、麻しんの患者に接触した場合には、72時間以内に予防接種をすると効果的であると言われています。

5 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

6 麻しん患者の報告数（過去5年間）

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
札幌市	1	1	0	1	1
北海道	1	2	0	1	1
全国	6	28	45	265	23

※2026年の札幌市及び北海道の数値は、2月10日までの届出数

※2026年の全国の数値は、国の感染症発生動向調査第5週（1月26日～2月1日）までの速報値（2月4日現在）